

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する公開情報

研究機関名：筑波メディカルセンター病院

倫理審査承認日： R4 年 3 月 25 日
研究課題名：出血発症の脳動静脈奇形における出血点の検討
研究期間：倫理審査承認後～西暦 2024 年 3 月 31 日
研究対象： 当院において 2014 年 4 月から 2022 年 3 月の間に診断・治療を行った破裂脳動静脈奇形の患者
対象材料 <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（カルテに保存されている診療情報および画像データ） 上記材料の対象期間 西暦 2014 年 4 月～ 2022 年 3 月
意義・目的： 脳動静脈奇形(AVM)は、異常な動脈と静脈の集合からなるナイダスと呼ばれる血管塊からなり、ナイダスに関連する血管構造および脳循環動態に異常な負荷がかかることで、脳出血やてんかん発作などの症候を来す疾患です。AVM の治療はその複雑な形態から容易ではなく、外科的治療・血管内治療・放射線治療などを単独ないしは組み合わせた集学的治療が選択されることが多くなります。 出血発症のAVMでは治療戦略を決定するに当たり出血点の同定は極めて有用であるが、その複雑な形態から出血点の正確な同定は必ずしも容易ではありません。これまでにAVMに関連する脳動脈瘤に着目して、動脈瘤の部位やそれに関連した出血リスクなどについて解析した報告はありますが、従来の診断技術では動脈瘤が確認できない症例も多く存在しており、正確な出血点の特徴については未だ明らかになっていない点も多くあります。 本研究では、出血発症のAVMについて頭部CT（3D-CT Angiography）、頭部MRI・MRA（造影MRI）、脳血管造影、など最新の画像診断検査を用いて、正確な出血点の同定と出血点に関する臨床的・解剖学的特徴、それによる治療の選択と治療成績について、後方視的に検討することを目的とします。
方法： カルテ上の患者データや画像データを収集する。収集するデータは、患者背景・画像所見・臨床転帰などです。収集したデータをもとに破裂脳動静脈奇形の出血点について、その詳細を検討します。個人の特特定可能な情報については対応表を用いた匿名化により個人情報情報を厳重に保護します。データと対応表はいずれもパスワードロックします。データは中居康展が、対応表は上村和也が、いずれも医局個人用の鍵付き引き出し内に保管します。また、診療外目的使用について拒否の申し出があった場合には、解析対象から除外します。
問い合わせ等の連絡先： 筑波メディカルセンター病院 脳神経外科 上村 和也（代表番号 029-851-3511）

